

「命より大切な仕事はない」

電通の過労自殺問題

広告代理店最大の電通の新人社員の24歳の女性が自殺したのは長時間の過重労働が原因として労災認定された。昨年10月から残業時間が急増し、月100時間を超えて「過労死ライン」とされる80時間を上回っていた激務が続ぎ、うつ病を発症したという。「体も心もスタスタ」「毎日次の日が来るのが怖くてねられない」「もう4時だ。体が震えるよ・・・しぬ」。女性はツイッターなどで心身ともに追い詰められていく状況を友達にも伝えていた。会社に提出する毎月の勤務状況は、残業時間が実際よりも少なく報告されていた。母子家庭で育ち、「お母さんを楽にしたい」と猛勉強して東京大学に入り、電通に就職してからわずか8カ月後の悲劇だった。労災認定は氷山の一角ともいえる。厚生労働省の企業アンケートでは、残業時間が月80時間を超えた社員がいる会社は2割を超えた。今回の問題は電通だけでなく、長時間労働が広がっている産業界全体への警鐘と受け止めるべきである。

我々の時代は多く残業する人は夜9時まで残業して3時間の残業時間をつけて休憩を含めて1時間はサービス残業月20日稼働で60時間の残業くらいだった。すべて**自己申告**で1時間のサービスはおかしいと思うかもしれないが自分自身時間内に目いっぱい仕事をしているかといえそうではない。ぼんやりしている時間もあるはずだ。また、与えられた以上の仕事をしていた。つまり今日した仕事に関係するデータや参考になる資料など**自身が成長**するために自分自身で勉強し仕事の工夫をしたものだ。

確かに勉強や研究はよくしたと思う。「会社や自分にとって利益になる価値ある仕事をするためだ」

上司から残業をしなさいと言われたり、聞いたことは記憶にない。現場でラインに入っているものは別で一日に無論2時間や、3時間くらいは残業は指示されていた。一日三交代とか二交代など夜勤があるからあまり長く残業できない仕組みだ。職場の空気が残業は当然ということでもなかった。残業時間よりも社員同士の**人間としての評価に対する競争意識**は十分感じた。「**人事評価制度**」・「**個人目標制度**」がとられていたから人間関係もよかった。たいていの人は夜8時迄で2時間残業を申告していたと思う。残業時間は月40時間前後、あまりしない人は20時間くらいの者もいた。サービス残業は1時間程度はしていた。ただ、残業するから良い社員だとは言わなかったし評価の対象にもなかった、つまり能力主義だ。評価は課・事業部・全社で行われ当然人間の評価など一人の評価で行われるわけではない。また、資格試験などの能力評価もされていた。「**質の良い仕事をいかに早く効率よくするか**」夜10時頃以上しても頭は働かない。だかららして長時間しても健康を害するだけだ。上司は「早く切り上げて帰ろう」とよく言っていた。

長くいる人は決まっていたがその人が転動して他の人に代わって同じことをしている人は他の人と同じように早く仕事をしていたから、いかに仕事の要領が悪かったかだと思っ。

忙しい日とそうでない日はそれなりの工夫も必要だ。毎日忙しいのであれば労働時間や人の問題も当然ある。そこは企業としてどうすべきか管理者が考える必要がある。**社会に貢献し、社員満足度の高い企業を目指すべきである**。社員が楽しく充実した仕事をし、社会に貢献できないのであれば会社経営の資格はない。電通だけの問題ではない。「ブラック企業」で社員を使い捨てにする企業が存在すること事態生き残れないことは明らかだ。こつした企業は早く会社をたたむべきだ。「**企業とはなにか、経営とはなにか**」**基本を理解していない経営者が**いまだにいることが問題だ。

まずは今の制度で企業の中で指導・監督を徹底することが必要だし、社員がいかに他社より優れた満足度が得られるかだ。政府の「働き方改革実現会議」では長時間労働を規制するなど法整備がなされているが、それより「ブラック企業」の**リストを作り社会に公表**するなど撲滅することだ。人の命と健康を守るためには会社側に管理責任として**厳しい刑事罰**を課す必要がある。そうしない限り後を絶たないのではなかるうか。